

# 現代に躍動する「古楽」

## 連続講座2024

11月7日(木) **カリヨンの歴史と魅力**  
18:30-20:00 カリヨン演奏家 高尾 徹

11月9日(土) **カリヨン・コンサート(演奏:高尾 徹)**  
14:00開演 会場:JR伊丹駅前広場 現地集合/現地解散 \*主催:伊丹市

カリヨンは低地諸国(オランダ、ベルギー)で発達した楽器で、鍵盤を使って青銅の鐘を鳴らします。鐘は通常、教会や市庁舎の塔に吊るされており、鍵盤も鐘も鐘楼の高いところにあります。16世紀初頭から、カリヨン奏者たちは塔の階段を登り、時報だけでなく、さまざまな音楽を町中に届けてきました。現在、ヨーロッパでは音楽院の課程やカリヨン学校でカリヨン奏者が育成され、奏者たちが各地の「塔」で活躍しています。今回はそのお一人をお招きしてカリヨンの実際を伺います。11月9日には本物のカリヨンを聴いてみましょう。



©Historische Huizen Gent

11月28日(木) **楽譜から読み解く音楽:モーツァルトの楽譜をどう読む?**  
18:30-20:00 ~自筆楽譜とさまざまな出版譜の比較検討から  
相愛大学音楽学部教授 三島 郁

12月12日(木) **楽譜から演奏へ①**  
18:30-20:00 **バロック時代の様式・舞曲・装飾・テンポについて**  
フラウト・トラヴェルソ奏者/相愛大学講師 有田正広  
演奏:有田正広、宮戸美晴

12月13日(金) **楽譜から演奏へ②**  
18:30-20:00 **バロックから古典の演奏解釈について**  
フラウト・トラヴェルソ奏者/相愛大学講師 有田正広  
演奏:有田正広、宮戸美晴

「この部分の強弱はなんだろう?」「どんなアーティキュレーションだろう?」「どんな表情で演奏すれば良いのだろうか?」バロックや古典派の音楽作品を演奏しようとする時に、誰でも一度はこのような疑問を持ったことがあると思います。さて、ではなぜこのような疑問が生まれるのでしょうか?それは、当時の楽譜に書かれた情報が少ないように見えるからかもしれません。しかし実際には、たくさんの方が楽譜に書かれています。楽譜に書かれている内容を少しでも多く理解したい!そのためにはどんなことが必要なのか?その一つとして「当時の演奏習慣を理解する」ことが挙げられるでしょう。今回の講座では、バロック音楽の演奏習慣を考える上で重要な要素となる「様式」「舞曲」「装飾音」「テンポ」を中心に扱います。講座を受講する皆さんが、これらの要素の基本的な内容、そして国・地域ごとの特徴や見分け方を知ることによって、当時の音楽がよりくっきりと見えてくるようになることを願ってお話ししたいと思います。

《講座内で取り上げる楽曲》J.S.バッハ、G.Ph.テレマン、A.コレッリ、J.H.ダンゲルベール、L.クープラン、F.クープラン、J.M.オトテール、M.ブラヴェ、W.A.モーツァルトの作品など。

入場無料(要事前申込。右のフォームからご登録ください)

本講座は後期「芸術環境論」の一部を公開するものです。聴講を歓迎します!

お問い合わせ:相愛大学音楽学部准教授 志村 shimura@soai.ac.jp

